

健康な住まいづくり

◆我が社の取り組み◆

VOL. 6 大平洋建業株

『健康』と『環境』に取り組む住宅業者を紹介する『健康な住まいづくりー我が社の取り組み』の第6回は札幌市の大平洋建業(株) (佐藤芳郎社長)。同社が、(株)拓建築設計事務所(札幌市、天谷一男代表)、(株)アクアグレース(札幌市、小仲美智子社長)と共同開発した、パッシブ換気システム、床下蓄熱暖房、太陽光発電システムを組み合わせた「北方型住宅Cheer・Home(チアホーム)」がさきごろ、経済産業省の「異分野連携新事業開拓計画(新連携)」の認定を受けた。佐藤社長は「良い住宅を広くという働きかけが認められた」と語るとともに、「住宅業者はお客様の一生に対する責任の一旦を担っている。これからは『環境と身体にやさしい住まいづくり』がキーワードとなる」とした。

大平洋建業 拓建築設計事務所、アクアグレースの3社が共同開発した「北方型住宅Cheer・Home(チアホーム)」が7月25日付で、経

経産省「新連携」に認定

環境と身体にやさしい住まいづくり

済産業省「異分野連携新事業開拓計画(新連携)」の認定を受けた。

「チアホーム」は、パッシブ換気システムをベースに、床下蓄熱暖房と太陽光発電システムを組み合わせたオール電化住

宅。省エネ・省コスト住宅として光熱費を灯油暖房に比べて最大80%削減、また自然屋内換気によって温度ムラのない屋内環境を実現するなど『環境』や『健康』に配慮した快適空間を提案する。

合研究所が協力、つまり産学官の連携によって完成しました。関係者全員の良い住宅を広めようという働きかけが認められたと思えます」と語る。

知られていない頃でしたが、北海道アトピー環境研究会の渡辺一彦会長(渡辺一彦小児科医院院長)や横山幸弘さん(S・E・T建築計画事務所)とは高校の同期生でシックハウス症候群にはとて

の依頼でパッシブ換気住宅を初めて手掛けることとなる。2002年のことだった。住宅が高気密・高断熱化へと進む中、結露が深刻な問題となり、換気的重要性が指摘されました。結露を防ぐ、住みよい住空間の実現などパッシブ換気住宅の特性が、私の求める住宅と同じ方向性でした。



大平洋建業株 佐藤 芳郎 社長

新連携認定について佐藤社長は「民間3社がスクラムを組み、北海道や北海道上北方建築総

ちはじめたのは、シックハウス法が施行される以前の1995年頃。シックハウスの症候群があまり

も関心がありました。ドイツのアウロ社の自然塗料、RAL規格(ドイツ商品安全・品質表示協会)の採用や、工務店仲間と「パヴェロロギー研究会」の立ち上げなど『健康』や『環境』に対して積極的に取り組んできた。

これまでに手掛けたパッシブ換気住宅は15棟を数える。その全てのユニットから「室内の空気が綺麗、喘息やアトピー、化学物質過敏症の症状が改善した」と満足の声が寄せられている。今では住宅受注全体の3~4割を占め、このパッシブ換気住宅をベースとした「チアホーム」の記念すべき1棟目が、昨年9月に白老町に完成したモデルハウス「一水之館」だ。

体験が可能で、これまでに約30組が「チアホーム」を実際に体感し、高い評価を得ている。「チアホーム」はパッシブ換気住宅の応用型といえます。将来的には全国規模の代理店網の構築なども視野に入っていますが、断熱性や気密性など住宅の性能レベルを落とすことがあってはいけません。そこで、一定の技術レベルを保つために北方型住宅の基準を満たすことに取り組んでいます。

佐藤社長は「環境と身体にやさしい住まいづくり」がこれからのキーワードになると強調する。「住宅は人が住むところ。私達はそこに暮らす家族の一生に対する責任の一旦を担っています。いつでも笑顔があふれ、健康に過ごせる住まいを提供し続けていきたい。」

大平洋建業(株)札幌市豊平区西岡4の14の2の13、番011-5884-3071、http://www.t-kengo.com



チアホームモデルハウス「一水之館」(白老町)

